

亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 第2回小委員会（文化ホール） 要旨

日 時：令和4年9月26日（月） 午後3時00分～5時00分
場 所：亀岡市役所3階 302、303会議室
出席者：松井利夫委員・河原林茂美委員・栗山初美委員・藤本邦雄委員・蔭山陽太委員・
松井哲哉委員
欠席者：なし

委員意見等一覧

（A委員）

亀岡会館ができた時代と今の時代では、世の中の価値観や市民の行動も変わっているので、施設機能についても求められるものが変わっている。また、今どき亀岡でイベントをやったときに京都市内でやっているような演奏会や舞台について集客ができるのかという疑問も感じている。

文化ホールは、少子高齢化が進んでいく中で、これからのまちづくりを担う核として、どのような機能を有した施設を作ることが必要か考えることが重要であると感じている。

施設規模は 500 から 600 人程度入る中規模の施設がいいのではと考える。

また子どもたちが歴史文化や伝統文化を学び、それらを発表する場所や高齢者がいつまでも元気に活動できる場所が必要なので、一定規模の施設が必要であろうと考えている。

市民利用が第一なので、専門的な施設よりも、最低限の施設でよい。

専門的なホールは京都市内や近隣市町にある施設を利用すればよい。

事務局から提供あった養父市の施設を目指して検討するのはどうか。

（B委員）

機能的には、文化資料館と文化ホールの機能を有した複合のホールがいいのではと思う。

亀岡会館が廃館になったことで、文化活動をする団体にとって、活動する場所が制約されていることが課題である。文化団体が活動しやすいように新しい施設の建設をお願いしたい。

養父市の施設の機能や規模感がいいのではないかと思う。

（C委員）

文化施設は、自分の興味のあるものを見に行くことと、自分たちの行っている活動を発表するということが考えられる。このことを鑑みても人口約8万人の亀岡市でどのぐらいの人が施設を使って、稼働率がいくらなのかということが見当がつかない。

あと周辺にも文化施設が建設されているので、亀岡の人に見てほしい場合は亀岡市内に施設があることが大切かもしれないが、文化活動の発表に関して、亀岡市内で活動を必ずしもしなければいけないことはないと感じている。亀岡市内だけではなく、広域的に見て文化施設の使い方等を検討する必要があるのではないか。

ギャラリーかめおかを見学して感じたことが、新しい施設の建設を検討するよりも前に、まずは既存の施設の使い方や運用方法を検討することが先ではないか。

(A委員)

文化施設を考える上で、基本的には、このまちの子どもたちや高齢者にとってどんな施設が必要なのかという視点と亀岡市独自の施設として、他の地域にはない特徴のある機能を有する施設を検討する必要があると思う。

C委員のギャラリーかめおかの使い方や運営の仕方を見直すことは私も賛成である。

ただし、ギャラリーかめおかに文化機能が集約することで、利用者の増加に伴う駐車場の渋滞問題など検討しなければいけない課題はある。

今のギャラリーかめおかのバラ園に、新たな文化施設を建設することも検討してみてもどうか。

(D委員)

高齢者が生きがいを感じられて、その高齢者から子どもたちが学べるような施設が必要だと思う。そうすると亀岡会館のようなホールは必要ということになる。

(B委員)

施設の機能とは、別に大きな駐車場を設けることで、多くの来場者が見込める施設を作ることができる考える。先日、亀岡運動公園の野外ステージで演奏会をしたときに、初めての試みだったので、来場者数が心配だったが、約300人の来場者があった。

これは、亀岡運動公園に大きな駐車場があったことが、多くの来場者を呼べた要因だとも思う。ギャラリーかめおかの改修の話もでていますが、駐車場の問題や活動できる部屋が少ないように感じているので、新しい場所に施設を建設することも検討したい。

あとはギャラリーかめおかは客席が見つらいとクレームを受けたこともあるので、鑑賞する人が見やすい専門的な機能を有したホールも亀岡市内には必要であると感じている。

(D委員)

ギャラリーかめおかの客席が見つらいという話で、音楽演奏や舞台は、2時間や3時間席に座って鑑賞することにもなるので、座り心地のいい客席は重要な要素であると思う。文化施設がまちづくりにどう関わっていくのかという視点について、子どもたちの教育ということに関して言えば、プロの演奏や舞台を直に見ることも重要であると感じる。

(E委員)

施設を考える上で、将来を見据えて、どういうまちづくりをしていくかという観点から考えていく必要がある。それと、他のまちにはない亀岡ならではの施設を考える視点が必要なのではないかと思う。文化というのは、音楽演奏や舞台鑑賞というだけではなく、広く人の営みがどうなっているのかという視点を持って考えることが大切である。

また施設の機能面について考えたときに、音楽演奏と舞台では音響で求められる質がそもそも違うし、プロが行うような演奏会や演劇を見ようと思うとそれなりの設備が必要になってしまうので、亀岡市内だけではなく、他の地域の文化施設やホールを活用できないかという柔軟な考えも必要ではないかと感じている。

今ある「ギャラリーかめおか」の設備や機能についてはまだまだ多様な可能性があると思う。

あらためて使い切れていない要因を考えて、新しい施設で同様の課題が出ないようにすべき。

新たに施設を作るということは、人件費や維持費、修繕費などに多くの経費がかかるので、目的を明確にして市民と共有し、後世の負担とならないようにしなければならない。

実際にコンセプトが曖昧で使われなくなった施設を多く見ているので、そのようなことにならないよう慎重に検討する必要がある。

この間、亀岡市内を見せていただいて、様々な場所があってとても魅力的な町だと思った。

また、かめおか霧の芸術祭は、アート業界ですごく注目されている。亀岡はその点でも魅力を持っている。今は、まだ広がっていないかもしれないが、確実に何か新しいものを生み出していける、新しい価値観を示していけるところになるのではないかと思う。

(F委員)

施設の機能面の話から始まっているので、どうも議論がループしている感じがして、皆さんも意見交換について腑に落ちていないところがあると感じている。

前回、他市の事例で専門的な施設を紹介したのは、そのような議論がなされていないと感じていたからである。しかし、本日の議論では、市民利用のことをお話されていて、これでは議論がぐるぐると回り続けて、結論が出ないのではと危惧している。

私の意見としては、ギャラリーかめおかの使い方を見直して、検証とセットで新たな施設についても議論すべきだと感じている。

(D委員)

皆さんの意見を聞いていると、そもそも新しい文化施設は必要なのかというところに戻ってきてしまっている。

昨年の市民対象のLINE アンケートでも、一部の活動をする市民のために多額の税金を使うのかという意見もあった。そういう意見があるからこそ、具体的になぜ文化施設が亀岡市に必要なのかということを説明し、市民の皆さんに納得できるようにしなければいけない。

(A委員)

私たちが新しい文化施設を要望する理由としては、このような機能が欲しいとか、文化団体の発表の場が欲しいなどといったことではなく、亀岡のまちづくりに新しい文化施設が必要であると考えているからである。とりわけ、これから亀岡市を担っていく子どもたちがどのようなまちの中で育っていくべきかということを考えながら文化施設のあり方を検討しなければならない。高齢者が今まで築き上げてきた地域の文化活動を子どもたちに伝えることも重要なことであるし、そういったことが学ぶことができる総合的な文化施設が亀岡市には必要だと考える。しかし、実際に新しい文化施設を建てることに反対意見を持つ、市民や団体もいるわけなので、亀岡市のまちづくりにとって文化施設が必要だという根拠や将来世代にとって必要だと説明できる理由を今後も色々な角度から議論を重ねていく必要があると感じている。

(E委員)

私からの提案として、この小委員会で、このまちをどうしていくべきなのかという結論を出すことには限界があるので、説得力ある理由を説明できるようになるためのリサーチするプロ

ジェクトを立ち上げてはどうか。

先ほどから、「子どもたち」というキーワードが出ているが、実際に小学生や中学生、高校生にどういうまちが良いのか考える機会を与えることが大切だと思う。リサーチをして得た情報やアンケートの結果は実態を把握する上で、非常に役に立つし、説得力を持った資料にもなる。

文化施設が必要かどうかという話であるが、そもそも多数決で決めることが間違っていて、まちに文化施設をつくることは、市民にとって不平等なことであるということを思っておかなければいけない。ただ、文化施設を使わない人から見ても、亀岡市のまちづくりのために必要な施設であるということが説明できれば良いし、つまり文化施設がまちづくりにとってどういう位置づけにあるのかということを確認にする必要があると感じている。

(D委員)

新たな文化施設を建設することは、市長は前向きに考えていただいているが、多くの市民がそのように思っているのか疑問に感じるので、市民の方に文化団体の活動を理解していただいたり、支持いただけるよう、我々文化団体も活動を広げていく必要があるのではと思う。

(C委員)

施設の機能面や活動場所が不足している等の課題に対して、改善に向けた取り組みをしていないのにも関わらず、新しい施設建設に多額の費用をかけることにとても不安を感じている。

そういった面では、この小委員会で何か試みてみようという意見が出たことは一定評価できる。

また、子どもたちの話が出ているのに、次に繋ぐ世代がこのメンバーの中に含まれていないことは疑問に感じる。そういった試みを重ねることや新しいやり方を作っていないといけないとも思う。

(B委員)

ガレリアかめおかの改修の話がでているが、あの施設は道の駅なので、多くの利用があることから駐車場の渋滞の課題が存在している。私もガレリアかめおかを使うときは、周りの駐車場を確保しているが、そういった課題も検討していただかないと困る。将来世代の話も大切だと思うが、今活動している団体のことも考えていただく必要もあるかと思う。

(D委員)

本物に触れる機会をつくる機会が大事なので、質の高い音響や居心地のいい座席をつくることが必要と思う。この場で話をするだけではなく、先ほどおっしゃったようにリサーチするかプロジェクトチームを作るなど、何か実際に行動を起こすことが大切だと思う。

(E委員)

新しい施設ができないとか、施設の機能面で足りないという理由で、問題を解決しないことは、将来世代にとって無責任な行動だと思う。この課題に関しては、ハード面ではなくソフト面で十分に対応できると考えている。

例えば、中学生、高校生は毎年1回劇場などに行くプログラムを条例化するなど。文化施設が必要だということを議論する前に、何か行動を起こしていかなければ、施設が欲しい人が勝手に言っている意見として捉えられる。なので、そうならないためにも客観的に分析をしなければいけないと思う。

また中身がないのにハード面を整備しても、同じような課題がまた現れるだけなので、しっかり慎重に分析と議論を進めていきたいとも思う。

例えば、駐車場の渋滞問題一つをとってみても、民間の駐車場を利用したりするだけで、渋滞の緩和に加えて、地域の経済効果もあがるといった事例も知っているので、そういった一つの試みを積み重ねて、ソフト面で解決できる新しい提案をしていくことが必要ではないか。

そういう試みをやった上で、やはり新たな文化施設が必要だということになれば、説得力を持つと思う。

(A委員)

新しく文化施設を建てると決まれば、文化ホールの規模については、養父市の600席ぐらいの規模でいい。

ガレリアかめおかのバラ園のところに、新しいホールを作ればいいのではないか。また、文化ホールと文化資料館は一緒の方が市民も集まりやすくなり、コスパもよくなると思う。

しかし、それは将来に対して負担をかけることに繋がりがかねないことでもあるので、まずは今ある施設の改善の余地を検討することが先ではないかとも一方では思う。

(E委員)

新しい文化施設を作るにしても、会議室が本当に必要なのかと思う。会議室ではなく、全部スタジオの機能を設けていれば、会議室にもなるし、文化団体の練習場所や小さな発表場所にもなりうると思う。

あと公園の中にある施設は人が集まりやすいのでいいと思う。

(D委員)

事例紹介にあった施設には、共通してキッズルームがある。

また、広めのリハーサル室のようなものがあれば、リハーサルにも使えるし、小さなサークルとかは、そこで発表会ができる。

(E委員)

ガレリアかめおかの予約システムのあり方は、面倒であるが、検討の余地はある。そもそも施設は使ってもらわないと意味がないので、運営側の努力一つで施設の使いやすさが変わってくるので、そこは運営側にぜひ検討していただきたい。

(D委員)

プロジェクトチームを立ち上げて、現状を知ることが、まずは第一歩のように感じた。LINE アンケートの結果にはショックを受けたが、現実を受け止めて、現状分析することから何か具体的な行動ができたらと思う。

(F委員)

設備有りきの議論になっている感じがあったので、多数決で文化施設の必要不必要を決めるのではなく、現状分析をしっかり行った上で、施設の検討は必要だと思うし、このまちにとっての文化施設の役割をまずは明確にするための議論を重ねる必要があると感じている。